

第1回 酒田港カーボンニュートラルポート(CNP)検討会議事概要

日時：令和3年9月14日(火) 10:00～11:40

場所：酒田市民会館希望ホール 3階小ホール

【議事概要】

- 配付資料の説明を行い、検討会要綱案が了承された。
- 検討会として、脱炭素社会実現に向けて、次世代エネルギーの活用に向けた現状と課題の整理を進め、年度内(来年2月)に中長期の取組方針をとりまとめることが確認された。
- 構成員である山形県環境エネルギー部、酒田共同火力発電株式会社、加藤総業株式会社から取り組み状況の説明があった。
- 次回は10月13日(水)に開催予定。

【構成員のコメント】

- 風力発電から生み出される電気はカーボンニュートラル、水素の関係において重要と考えている。
- カーボンニュートラルに携わって、社会に反映していけるかということが一つのスタートになった。重機や車両はこれからの技術開発だが、導入に向けて勉強するきっかけになれば良いと考えている。
- CNP検討会が酒田に出来たことは非常に有意義なこと。検討会では最終的に将来像のとりまとめを行うが、その先が大事だと考える。実証試験やプロジェクトを立ち上げて酒田に事業を立ち上げる必要があると考えられる。
- 車両やFCVが港湾からどのような形で利用されるか、水素スタンドを活用するのか、意見を聞きながら検討していきたい。
- 工場の製造過程で、石炭火力に由来する電力に依存している。カーボンニュートラル社会に向けたアプローチとしては、電力をグリーン調達していくことが非常に大きな課題と認識。この取組は単一の事業、企業で達成できる問題ではなく、官民一体となった検討が必要な社会課題であると考えている。
- 福島のエネルギー関連事業者も水素の関係で勉強している方々があり、今後そのような方向に動けるかも含めて検討していきたい。
- 水素も含めて作る、運ぶ、貯める、使うという中で港湾エリア内だけでなく庄内全域の中でどうやって使うのか、ポテンシャルを勉強していきたい。2050年は今から30年後、我々は現役世代ではないと思っている。次の世代にどういった社会を残すことが出来るか、次の世代の方の思いもビジョンに

入れられればと思っている。

- 燃料輸送にFCVを導入することで排出削減に寄与できる余地があると考えている。カーボンニュートラルは世界的な課題と認識している。酒田港の実行ある議論に協力できればと考えている。
- 地域で製造された水素を運び、港湾の荷役機械等で使うというプロセスも考えられる。これをFSで行ってみるときに国の補助金等を活用できないか。このとき誰が旗振り役となるかが問題となる。あくまで一つの例だがこうした具体的な取組が、この議論の場から生まれれば良いと考えている。